90-09-21090

Keio University

慶應義塾大学ビジネス・スクール

血液事業
― 献血率向上を目指して ―

『血液事業は人の善意で成り立っています。それは築く過程は難しくて、崩れる時は簡単な事業であると思います。「献血は文化である」と言える程まで根付かせていくには根気と時間が必要です。そして何より血液事業は国民全体で支えるべきものです。このように公共性と助け合いの精神の上に成り立つ事業だからこそ、たとえ過疎地であってもできる限り、献血車両・職員を日々走らせているのです』

― C 県日本赤十字血液センター C 氏 ―

横浜の繁華街での出来事

大学院生の鹿島隼人が所属研究室の仲間たちとゼミ後の食事会に向かって横浜の繁華街を歩いていると、大きなプラカードを抱えて献血を呼び掛ける日本赤十字社の職員を見かけた。大通り付近で通りがかる人々に向かい、声をあげて献血者募集を呼び掛けているところであった。職員の抱えるそのプラカードには『A 型 超ピンチ･B 型 超ピンチ･O 型 ピンチ･AB 型　大ピンチ』と書かれており、血液不足を強く訴える内容であった（図表 1）。

ゼミ唯一の女性で、メンバー中もっと年下のせいかタウン情報に詳しい湯島さんによると、若者の街・渋谷や新宿では「献血者ネールサービス実施」「献血者占いサービス実施」といった女性や若者向けの街頭 PR も目にしたことがあるという（図表 2）。同じくゼミ生である体育会系の谷越君は、以前、大学キャンパス内に設置された献血バスでの集団献血に、ラグビー愛好会として参加した経験があると話しだした。そして「ラガーマンでも注射針には弱いんですよ」と笑

本ケースは、クラス討議の資料とするために慶應義塾大学経営管理研究科　田中　滋教授の下、藤井賢治（M30）によって作成された。経営管理の巧拙を記述したものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は http://www.kbs.keio.ac.jp/ へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 田中　滋、藤井賢治（2009 年 9 月作成）